

一般社団法人サエグサ&エクスペリエンス

2025年度 アニュアルレポート

第2期：2025年4月1日から2026年3月31日まで



はじめに

理事長ごあいさつ「子どもは、未来への希望です」

創業から150余年、ギンザのサエグサは“子供服”を通して、常にその時代の子どもたちとともに歩んできました。一般社団法人サエグサ&エクスペリエンスとしての活動も、2025年度で第2期を迎えました。私たちは、子どもたちが多様なヒトやモノ、コトと出会い、自らの感性をひらいていく場をつくることを目的に、さまざまな分野の専門家、地域、企業、団体の皆さまと連携しながら、「真の体験」を届ける活動を続けてまいりました。

2025年度は、自然科学、伝統文化、芸術、表現、自然との暮らしなど、幅広い領域で年間10件のプログラムを実施しました。子どもたちは、教室の中だけでは出会えない世界にふれ、驚き、問い、考え、自分の手と身体で確かめる時間を重ねました。

私たちが目指しているのは、知識を一方的に与える場ではありません。子どもたちが、自分自身の感覚で世界と出会い、その体験が未来を生きる力へとつながっていくことです。これからも、子どもたちが夢と希望を持って未来を生きていくために、私たちは多くの皆さまとともに、その環境を創造してまいります。

一般社団法人サエグサ&エクスペリエンス
理事長 三枝 亮

事務局長より

2025年度は、SAYEGUSA & EXPERIENCEにとって、活動の幅が大きく広がった一年となりました。自然の中で暮らしにふれる体験、街に潜む地球の記憶をたどる探検、伝統文化の舞台に立つ時間、音楽やマジック、落語を通じた表現の体験、果物や野菜の不思議に出会う学び、そして太古の生命や縄文の暮らしにふれるプログラム。一つひとつの体験は異なる分野に見えても、その根底には、子どもたちが「自分で感じる」「自分で考える」「自分で世界とつながる」時間を大切にしたいという、共通した願いがあります。

また、2025年度は、プログラムを支えてくださるナビゲーター、会場、地域、企業、団体の皆さまとの協働が、より豊かに広がった一年でもありました。&Eの体験は、私たちだけでつくることはできません。子どもたちに本物の場をひらいてくださる多くの方々のご協力があって、初めて実現しています。

参加してくださったご家族の声や、子どもたちの表情にふれるたび、この活動は、急いで大きくするものではなく、一つひとつの体験を丁寧に届けていくものなのだと、あらためて感じています。2026年度も、子どもたちの成長に伴走する存在でありたいという初心を忘れず、日々のお出会いと気づきを大切にしながら、未来につながる体験を創造してまいります。

一般社団法人サエグサ&エクスペリエンス
&E事務局長 澁江 摩樹

1. 活動報告

1) &Eプログラム開催の軌跡

SAYEGUSA & EXPERIENCEは、2025年度も「子どもたちの感性を解き放つ“真の体験”」をテーマに、自然・科学・伝統・文化・芸術・表現を横断する、10件の「&Eプログラム」を開催しました。2025年度のプログラムでは、子どもたちが専門家の知識や技術に触れるだけでなく、自分の目で見、手で触れ、身体を動かし、感じたことを自分なりに受けとめる時間を大切にしました。

親子で参加するプログラムでは、保護者もまた“見守る人”ではなく、子どもとともに体験する一人の参加者として、その場に加わっていただきました。子どもと大人が同じ場所にいながら、それぞれに異なる気づきを持ち帰ること。それも、&Eが大切にしている「真の体験」のかたちです。

開催日	&Eプログラムタイトル	ナビゲーター	会場・フィールド	参加人数
2025年5月3日～5日	里山ホームステイ 2025	Yae	鴨川自然王国	3名
2025年5月18日	銀座の石の探検隊 2025	西本昌司	銀座5丁目～8丁目	10名
2025年6月22日	はじめまして日本のこころ ～鞆の浦編	辰巳満次郎	沼名前神社（鞆の浦）	6名
2025年7月27日	魔法使いの学校 ～魔法で伝えるありがとう	HARA	ソノリウム	21名
2025年8月3日	ホントはすごい！果物と野菜の物語	竹下大学	吉野果樹園	17名
2025年9月8日	縄文タイムトラベル 2025～トレーニング編	寒川一	鎌倉の森	12名
2025年10月11日～13日	縄文タイムトラベル 2025～実践編	寒川一	長者ヶ原遺跡（糸魚川）	6名
2025年11月9日	お寺で笑おう！～It's a 落語 World 2025	春風亭昇々	光明寺（港区）	14名
2025年12月13日	ピアノと砂のアラビアンナイト	広瀬悦子、伊藤花りん	ソノリウム	57名
2026年3月7日～8日	太古の海の神秘 2026	平山廉	早稲田大学・千葉県鋸南町	23名

2) 2025年度の&Eプログラム概要

● 自然と暮らしにふれる体験（子どもだけのプログラム）

「**里山ホームステイ 2025**」では、千葉・鴨川自然王国を舞台に、子どもたちが里山の自然と人のぬくもりに包まれて過ごしました。竹林、焚き火、野草、田んぼ、歌、食卓を通して、自然とともに暮らすことの豊かさにふれる時間となりました。最終日は保護者が加わり、加藤登紀子さんのミニライブも楽しみました。

「**縄文タイムトラベル 2025**」では、親子でトレーニング編に参加したあと、子どもだけの実践編へ。新潟県糸魚川市の長者ヶ原遺跡を舞台に、石斧、火おこし、水汲み、塩づくり、丸木舟など、縄文の人々の暮らしを追体験しました。自然の中で自分の手を使い、仲間と協力しながら過ごす3日間は、子どもたちにとって「生きること」を身体で感じる体験となりました。

参加者の声：「田んぼで遊んだ時、すべすべの泥がとっても気持ちよかった！（10歳）」「登紀子さんの歌がすごくて、鳥肌がたちました（9歳）」「最終日に、保護者も一時、時間を共有させて頂き、素敵な自然と田んぼでの体験をさせて頂きました。親が体験できていた自然の中で過ごす日々が、子供に経験させてあげられていないかと、改めて認識しました。（保護者）」「火おこし楽しかったです！夜の道もみんなで歌をうたえばこわくなかったです。（10歳）」「また絶対帰ってきたいです（9歳）」



● 自然科学への探究心を育む体験

「銀座の石の探検隊 2025」では、銀座5丁目から8丁目を歩きながら、建物の床や壁、柱に使われている石材を観察しました。普段は見過ぎてしまう街の中に、地球の長い時間や世界各地の大地の記憶が息づいていることを発見する、フィールドワーク型の科学体験となりました。

「ホントはすごい！果物と野菜の物語」では、吉野果樹園を舞台に、果物と野菜、品種改良、植物の不思議にふれるサイエンスプログラムを開催しました。ブルーベリーの摘み取りや味比べを通して、身近な食べものの奥にある自然のしくみと人の工夫を学びました。

「太古の海の神秘 2026」では、古生物学者・平山廉先生のナビゲートにより、太古の海と生命の記憶にふれる本格的な科学体験を実施しました。早稲田大学での講義と化石観察、千葉県鋸南町での野外発掘を通して、子どもたちは地球の時間と生命の歴史を、自らの手で確かめました。

参加者の声：「アルマーニのアズールマカウバがきれいでした。あれから、周りをみながら街を歩くことが楽しくなりました。石は不思議ですね。（12歳）」「子供は大人よりも感受性があるからか、気づいたことへの感じ方や受け取り方が豊かだなと思いました。子供が楽しめるような先生のお声掛けも印象的でした。先生が楽しそうなのが何より素敵です。（保護者）」「大好きなブルーベリーを堪能でき、好きなことに対する熱量を感じ取ることができた。HWの発表は少し恥ずかしそうにしながらも、自分のアイディアに周りのお友達からも意見を言ってもらえてとても嬉しそうにしていた。（保護者）」「子供にとって特別な時間である事はもとより、周囲の大人達全員が子供のように夢になっていたのが魅力的でした。子供に合わせるのではなく、大人が全力で取り組み、そこに子供も参加しているような雰囲気イベントは他にはないと思います。とても充実した時間でした。（保護者）」



● 伝統文化に出会う体験

「はじめまして日本のこころ ～鞆の浦編」では、広島県・鞆の浦にある沼名前神社の、秀吉ゆかりの能舞台（重要文化財）を舞台に、能の所作や礼、装束、能面にふれました。神前で舞を奉納するという特別な体験を通して、子どもたちは日本の伝統文化に込められた静けさや祈りの心に出会いました。すべてが丁寧に紡がれた時間は、子どもたちの心と身体に深く刻まれたことでしょう。約400年ぶりに復元された鏡板の前で、静かに立ち、舞う。その姿からは、子どもたちのみならず、親御さんたちの中にも、確かに新たな感性が芽生えたのが感じられました。

「お寺で笑おう！～It's a 落語 World 2025」では、お寺の本堂で落語にふれ、言葉と想像力で人を笑わせる体験に挑戦しました。聴くこと、想像すること、自分の言葉で物語を届けることを通して、笑いが人と人をつなぐ力を持っていることを体感しました。

参加者の声：「はじめて古来より伝わる能面を目の前に見せていただいて、お歯黒や髪の毛の感じがおもしろかったです。（11歳）」「落語という世界を知り、言葉の奥深さ、想像する楽しさを感じたようです。最初は人前で披露することにドキドキしたようですが、反応の楽しさを感じ喜びに変化していく娘の姿に感動しました。（保護者）」



● 芸術と表現、感性をひらく体験

「魔法使いの学校 ～魔法で伝えるありがとう」では、イリュージョニスト・HARAさんを迎え、マジックを“観る”だけでなく、自分の想いを届ける表現として体験しました。大切な人に向けて感謝の気持ちを込めることで、技術ではなく、心を伝えることの大切さにふれる時間となりました。

「ピアノと砂のアラビアンナイト」では、ピアノの演奏とサンドアートが響き合う、音と光の物語を体験しました。子どもたちは、間近で本物の演奏と表現にふれた後、実際に砂に触れながら、自分の手で物語を描く楽しさを味わいました。

参加者の声：「まじっくみせてくれてありがとう。いままじっくれんしゅうしているよ。またあおうね！（5歳）」「私たちが触らせてもらった砂よりもっと細かい砂で絵をかいているなんて！とても驚きました。そして広瀬先生のピアノがとっても音が遠くまで飛んでいて、きれいでした！（10歳）」「目をつぶってピアノをひいているのがすごいと思いました。（7歳）」



3) 2025年度 活動実績

2025年度は、年間10件のプログラムを開催し、延べ67家族、子ども85名、参加者総数172名の皆さまにご参加いただきました。

少人数での濃密な体験から、0歳を含む幅広い年齢の子どもたちが参加できる芸術プログラムまで、年齢や発達段階、関心の広がりに応じた多様な体験を実施しました。

また、継続して参加してくださるリピーター比率も微増となりました。一度の体験で終わらず、子どもたちの関心やご家庭での対話が次の参加へとつながっていくことは、&Eにとって大きな励みとなっています。

2025年度 活動実績サマリー

項目	実績	昨年度実績
開催プログラム数	10プログラム	7プログラム
参加家族数	延べ67家族	延べ63家族
参加者総数	延べ172名	延べ144名
参加子ども数	延べ85名	延べ72名
リピーター比率(年度間継続参加率)	28%	25%
登録会員数（子どもは対象年齢のみ）	子ども571名／526家族	子ども588名／496家族
&E TALK 実施数	2回	2回

4) 地域・企業・団体との協働の広がり

2025年度は、多様な地域・企業・団体の皆さまと協働する機会が広がりました。
専門家の知見と、土地や場が持つ力が重なることで、子どもたちにとって忘れがたい体験が生まれました。

子どもたちに本物の場をひらき、専門的な知見や技術、土地の記憶、文化の背景を共有してくださった皆さまに、心より御礼申し上げます。

プログラム	主な協力先（運営・会場等）※敬称略
太古の海の神秘 2026	千葉県鋸南町、早稲田大学
銀座の石の探検隊 2025	アルマーニ銀座、ビヤホールライオン 銀座七丁目店
里山ホームステイ 2025	鴨川自然王国
はじめまして日本のこころ ～軀の浦編	沼名前神社
ホントはすごい！果物と野菜の物語	吉野果樹園
縄文タイムトラベル 2025	美山プロジェクト
お寺で笑おう！～It's a 落語 World 2025	光明寺
ピアノと砂のアラビアンナイト	KAJIMOTO、ソノリウム
魔法使いの学校 ～魔法で伝えるありがとう	ソノリウム
2025年度以前のプログラム（今年度との重複除く）	養老昆虫館、サウンドクリエイト、代々木能舞台、一般財団法人 C.W.ニコル・アフアンの森財団、ソニーPCL株式会社、銀座和光、他

4. 次年度に向けての展望

SAYEGUSA &EXPERIENCEは、2026年度も「本物の体験を通じて、子どもたちの感性と生きる力を育む」という使命のもと、これまで積み重ねてきた体験の質をさらに深めるとともに、継続して参加して下さるご家族との関係づくり、発信の充実、事業基盤の安定に取り組んでまいります。

1) “一度きり”ではなく、継続して深まる体験へ

2025年度は、自然、科学、伝統文化、芸術、食、表現など、多様な領域で10件のプログラムを実施しました。2026年度は、その広がりを土台に、一つひとつの体験がその場限りで終わるのではなく、子どもたちの中に残り、家庭での対話や次の関心へとつながっていく流れを、より丁寧につくっていきます。

子どもたちが、驚き、問い、考え、また次の体験へ向かっていく。その積み重ねを通じて、&Eならではの「感性を育てる体験」を、より継続的な学びと成長の時間へと育ててまいります。

2) 会員制度の本格的な運用

2026年度より、&Eフレンドメンバー（有料会員）制度を見直し、体験をより深く残し、継続して育てていくための仕組みとして運用を開始します。プログラムへの優先案内や優待に加え、体験後の振り返り、記録、ナビゲーターや他のご家族とのつながりを大切にしながら、参加するご家族にとって、&Eの体験が「点」ではなく「線」として積み重なっていくことを目指します。

また、&Eメンバー（無料会員）は、これまで通り、SAYEGUSA & EXPERIENCEの活動にふれていただく入口として位置づけ、関心を持ってくださるご家庭との接点を広げてまいります。

3) 地域・専門家・企業との協働の深化

&Eのプログラムは、ナビゲーター、地域、会場、企業、団体の皆さまとの協働によって実現しています。2026年度も、自然、科学、文化、芸術、食、歴史などの領域で、各分野の専門家や地域の皆さまと連携しながら、子どもたちが日常では出会えない本物の場をひらいていきます。

単に特別な場所に行くことではなく、その土地や人、文化、自然が持つ背景にふれ、子どもたち自身が感じ、考える余白を持てる体験を大切にしていまいります。

4) 記録と発信の充実

2026年度は、開催レポートやWEBコンテンツの発信にも、引き続き力を入れてまいります。

REPORTでは、当日の様子を伝えるだけでなく、子どもたちの表情や言葉、体験の中で生まれた問いや気づきを丁寧に記録します。

また、&E TALK や &E AT-HOME を通して、専門家の視点や家庭での体験のヒントを届け、参加されたご家族だけでなく、まだ&Eに出会っていない方々にも、私たちが大切にしている「真の体験」の意味を伝えてまいります。

5) 持続可能な運営基盤づくり

質の高い体験を継続して届けていくためには、安定した運営基盤が欠かせません。

2026年度は、会員制度の運用、寄付・協賛の仕組み、広報・発信の強化を通じて、活動の持続可能性を高めてまいります。

子どもたち一人ひとりの“心の温度”に触れる体験を、ていねいに、誠実に、そして長く届けていくために、&Eはこれからも歩みを進めてまいります。

5. 法人概要

名称：一般社団法人サエグサ&エクスペリエンス

設立日：2024年8月14日

所在地：〒104-0061 東京都中央区銀座3-5-12

目的：子どもの感性と創造性を育む「真の体験」の提供を通じて感性教育を実施し、未来社会の貢献者を育成すること

主な事業内容：体験プログラムの企画・実施／WEBメディアの運営／感性教育に関する研究・発信

役員（2026年7月 現在）：

代表理事	三枝 亮
理事	森 茂
理事	澁江 摩樹
監事	本田 浩子

6. 決算報告

第2期:令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

※最終ページに、2025年度の貸借対照表および正味財産増減計算書を掲載。

以上
2026年7月吉日

お問い合わせ
SAYEGUSA &E 事務局
Email: support@sayegusa-e.org

※本レポート内の文章・画像等の無断転載はご遠慮ください

一般社団法人サエグサ&エクスペリエンス

貸借対照表

令和 8 年 3 月 31 日 現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
I 流動資産			
現金・預金	6,878,647	3,884,898	2,993,749
未収会費	0	99,600	-99,600
流動資産 合計	6,878,647	3,984,498	2,894,149
資産 合計	6,878,647	3,984,498	2,894,149
II 負債の部			0
II 流動負債			0
預り金	35,735	35,542	193
流動負債 合計	35,735	35,542	193
負債 合計	35,735	35,542	193
III 正味財産の部			0
I 基金			0
基金	2,000,000	2,000,000	0
2 一般正味財産	4,842,912	1,948,956	2,893,956
正味財産 合計	6,842,912	3,948,956	2,893,956
負債及び正味財産合計	6,878,647	3,984,498	2,894,149

正味財産増減計算書

令和 7 年 4 月 1 日から 令和 8 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
I 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 参加費収入	2,182,316	938,600	1,243,716
② 寄付金収入	27,029,740	14,031,040	12,998,700
③ 受取利息	12,406	2,110	10,296
経常収益 計	29,224,462	14,971,750	14,252,712
(2) 経常費用			0
① 事業費			0
プログラム開催費	4,715,391	1,633,252	3,082,139
業務委託費	16,007,896	7,678,469	8,329,427
② 管理費			0
管理手数料	3,712,370	2,118,000	1,594,370
その他諸経費	1,894,849	1,593,073	301,776
経常費用 計	26,330,506	13,022,794	13,307,712
当期経常増減額	2,893,956	1,948,956	945,000
当期一般正味財産増減額	2,893,956	1,948,956	945,000
一般正味財産期首残高	1,948,956	0	1948956
一般正味財産期末残高	4,842,912	1,948,956	2,893,956
II 基金増減の部			0
① 基金受入額	0	2,000,000	-2,000,000
当期基金増減額	0	2,000,000	-2,000,000
基金期首残高	2,000,000	0	2,000,000
基金期末残高	2,000,000	2,000,000	0
III 正味財産期末残高	6,842,912	3,948,956	2,893,956